

こんにちは、石川県ゴールボール協会の平田です。  
視覚障害者スポーツで、パラリンピックの競技のひとつ「ゴールボール」についてご紹介します。

1)どんなスポーツなの？

例えば、“目隠しをした状態で、手で行うサッカー”です。1チーム3人で行い、相手ゴールに、ボールを入れた回数が多い方が勝ちとなる、対戦型の競技です。コート大きさはバレーボールと同じですが、両サイドの9mの部分は全面、自陣と相手陣のゴールポストになっています。縦のサイド18mは3分割され、自陣、ニュートラルゾーン、相手陣に分けられます。ボールの中には鈴が入っており、転がるボールの音を頼りに競技します。大きさはバスケットボールとほぼ同じ、ただ、1.2キロも重さがあり、簡単には弾まないボールです。ボールを投げる選手以外の味方選手が同時に走って投げるふりをしたり、床を叩いたりするなど、音のたましあいも競技の楽しみのひとつです。口笛なんかもあります。

2)自分の居る場所はどうやってわかる？

コート内のラインには紐が入っており、これを手や足で探って自分のいる場所を確認します。全盲の選手は、ラインに紐がなくてもコートの全ての場所が分かるようです。さすがの一言ですね。

3)どんなルールがあるの？

攻撃する際、自陣とニュートラルの2つのゾーンの床に、それぞれ1回以上、ボールが触れる必要があります。そして、競技のゲーム性を一番高めるのが、10秒ルールです。

- ① 横飛びの寝ころぶ状態でボールをキャッチ、
- ② 起き上がって、自分、相手陣の位置・方向を確認、
- ③ 相手側の守備ポジションの弱い場所を狙ってボールを投球

文章の文字入力だけで10秒を超えますね。

投球はサイド又はアンダースローですが、パラクラス選手の球速は時速70kmにもなるそうです。

私は、元ノルウェーチームキャプテンの球を(手を抜いてもらって)受けたことがあります、恐ろしい威力でした。

4)最後に

目隠しのアイシェードをつければ、障害者も健常者も競技の条件は同じです。毎年開催される日本選手権には健常者も参加できます。県内の普及を考えているなかで、ネックとなっているのが、一緒に競技を楽しんでいただけの方(勿論、障害の有無は問わず)と、場所=ゴールポスト(の大きさ、設置場所)です。

本当にゲームをしようとする、岐阜市や京都市に出向く必要があり、県内での普及はなかなか進んでいない現状にあります。もし、ピンとくるものがありましたら、ご連絡いただくと嬉しいです。

石川県ゴールボール協会 会長 平田 朋弘 (北陸ゴールボールクラブ)

連絡先 〒924-0864 石川県白山市馬場一丁目97番地 [moomin6344616@jeans.ocn.ne.jp](mailto:moomin6344616@jeans.ocn.ne.jp)

\*\*\*\*\*

【画像】

◆1～3枚目 令和2年10月18日(日)

金沢市総合体育館で、日本ゴールボール協会が主催し、石川県で初のゴールボールの大会が行われました。

「2020 チャレンジゴールボール大会第2回北陸大会(石川大会)」(石川県障がい者スポーツ指導者協議会 北島さん撮影)

◆4枚目 基本的な競技スタイル アイシェード、肘・膝サポーター、ファウルカップを着用します。

